

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた
機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議（第8回）

議事概要

1. 日時：平成30年12月21日（金）16:30～17:30
2. 場所：合同庁舎4号館12階共用1208特別会議室
3. 出席者：

平田 竹男	内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局長
住田 孝之	内閣府知的財産戦略推進事務局長
宮田 亮平	文化庁長官
小谷 和浩	内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）
杉浦 久弘	文化庁審議官
末宗 徹郎	復興庁統括官
佐々木 浩	総務省大臣官房地域力創造審議官
奈良 俊哉	総務省大臣官房審議官（情報流通行政局担当）
山谷 裕幸	外務省大臣官房文化交流・海外広報課長
吉井 浩	国税庁長官官房審議官
藤江 陽子	スポーツ庁審議官
吉永 和生	厚生労働省大臣官房審議官（健康担当）
橋本 泰宏	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長
小野 稔	農林水産省大臣官房審議官兼食料産業局
藤木 俊光	経済産業省大臣官房商務・サービス審議官
平岡 成哲	観光庁観光地域振興部長
樋渡 幸生	東京都生活文化局文化振興部長
新保 幸裕	東京都オリンピック・パラリンピック準備局計画推進部事業推進課長
武田 康弘	東京都産業労働局産業企画担当部長
古宮 正章	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 副事務総長

（オブザーバー）

- | | |
|--------|------------------------------|
| 古尾谷 光男 | 全国知事会事務総長 |
| 笹島 晃司 | 全国市長会社会文教部長 |
| 細見 邦雄 | 全国町村会次長 |
| 小島 寛之 | 独立行政法人国際交流基金企画部長 |
| 河村 潤子 | 独立行政法人日本芸術文化振興会理事長 |
| 佐藤 安紀 | 独立行政法人国立科学博物館理事 |
| 若井 英二 | 株式会社海外需要開拓支援機構専務執行役員 |
| 鈴木 敏文 | 独立行政法人国際観光振興機構市場横断プロモーション部次長 |

(事務局)

諸戸 修二 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局
企画・推進統括官
藤澤 秀昭 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局
参事官

※下線は代理出席

4. 議事要旨

<平田局長 挨拶>

【平田局長】

こんにちは。ご多忙のところ、お集まりいただきましてありがとうございます。オリンピック・パラリンピックまで残り 581 日ということでありまして、来年は新天皇が即位され、新たな時代が幕を開けるということがございます。ラグビーW杯も開催され、2020 年東京大会に向けて、機運も盛り上がっていくその中で今般、2025 年の大阪万博の日本開催も勝ち取っていただき、2020 年以降の日本の文化的な流れについても、道筋をつけていただいて、御同慶の至りでございます。より一層、オリンピック・パラリンピックに向けても、文化プログラムの取り組みを加速していきたいと思っております。本日は、関係府省庁、東京都、組織委員会などから、最近の取り組みについてご説明いただき、そして、文化庁からは政府をあげて取り組む日本博について、検討状況をご報告していただくというのが主旨でございます。そして、本日の会議から日本博でも役割が期待される国立科学博物館にもご参加いただくことになっております。連携を深めさせていただきたいと思っております。また 2 年前にスタートいたしました beyond2020 プログラムについては、皆様の多大なるご協力を得まして、認証件数は 8000 件を超えて、全国に浸透しつつあります。この beyond2020 プログラムの発信力を強化し、より一層の機運醸成を図るため、文化以外の他分野への展開について本日議論を深めていただきたいと思いますという訳でございます。本日は関係機関が連携を深めて、一体的に文化プログラムを推進していただけますよう、闊達な議論をお願いしたいと思います。

<「文化を通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議の開催について」の一部改正>

- ・内閣官房オリパラ事務局より、資料 1 について説明。平成 30 年 12 月 19 日付けで、独立行政法人国立科学博物館長がオブザーバーに加わった。

<文化庁の取組について>

【宮田長官】

ただいま平田局長からございましたが、581 日、あっという間でございます。全国的に盛り上げていきたいと考えております。文化庁は 10 月に新・文化庁として、組織改革をは

じめ、シンボルマークのリニューアルや、文化庁創設 50 周年を記念した、各界の文化人 20 名を呼んで、すばらしい対談をさせていただいて、いろいろな改革について、取り組んでいるところでございます。最近ではキャッチコピーも「文化庁は面白い」というのを打ち出して、今後の文化プログラムにおいても、前例のない、斬新で、面白いアイデアを活かして展開していきたいと思っております。このあと、担当より詳しく説明をさせていただきますが、6月の官邸での会議におきまして安倍総理から 2020 年は日本において日本博を開催するので、文化庁が中心になって進めてほしい、とご指示がございました。私といたしましては、日本博を文化プログラムの中核として位置付けて、わが国の総力を結集した、史上初となる大規模な国家プロジェクトにしていきたいと思っております。そのために、文化庁職員をはじめ、国立文化施設等の協力を得まして、準備を進めている次第でございます。様々な分野の有識者の方々からもご意見を伺いながら、検討を進めていきたいと考えております。何をやるにおいても予算が大事でございますので、日本博事業といたしまして、国際観光旅客税財源を充てることとしており、およそ 35 億強の予算を確保しております。日本博を全国的に盛り上げていきまして、多様な関係者を巻き込んでいくことによって、オールジャパン体制を取り組んでいく必要があることから、ぜひとも皆様方との連携を一層強化していきたいと思っております。2020 は、さらにその先を見据えて、先ほど平田局長からもございましたけれども、2025 というまた新たな目標もございますので、文化プログラムが、日本博を代表としてしっかりと前進していくようにやっていきたいと思っております。

・文化庁より、資料 2 について説明。

<オリパラ事務局の取組について>

・事務局より、資料 3 について説明。

<関係府省庁等の取組について>

・関係府省庁等より、資料 4 から資料 11 について説明。

<東京都、組織委員会の取組について>

・東京都、組織委員会より、資料 12、資料 13 について説明。

(発言)

【平田局長】

文化庁の資料の 2 ページめに、「文化プログラム」の全体像がありますが、文化庁が中心でやるのはもちろんいいんですけど、東京都や組織委員会の取組とあわせて、全省庁や全機関を取りまとめる立場で連携を図っていくべき。

<beyond2020 プログラムの他分野への展開について>

・内閣官房オリパラ事務局より、資料 14-1 について説明。

<beyond2020 マイベストプログラムの創設について>

・内閣官房オリパラ事務局より、資料 15 について説明。

【スポーツ庁 藤江審議官】

beyond2020 プログラムを展開していただいて、健康面等での取組を支援するというプログラムを実施していただけるということでスポーツ庁からも一言申し上げさせていただきたいと思います。スポーツ庁では、オリンピック・パラリンピックを契機に、競技力向上はもちろんのこと、これを契機にスポーツを実施する、親しむ人たちが増えて、スポーツを通じた健康増進が図られるということ、重要なミッションとして取り組んでいるところでございます。スポーツ振興の基本的な方針である「スポーツ基本計画」におきましては、成人の週 1 回以上のスポーツ実施率を 65%程度にするという目標を掲げております。現状は 51.5%ということでございまして、上昇傾向にあるものの、まだ目標達成に向けては更なる取組の加速化が必要であると考えております。このためスポーツ庁では、9月に「スポーツ実施率向上のための行動計画」というものを策定いたしまして、関係する省庁や自治体など関係機関等と連携した取り組みを進めているところでございますが、今回のマイベストプログラムにつきましても、このような動きを後押しするものとして、オリパラ事務局、あるいは厚生労働省、経済産業省等と連携して取り組んでまいりたいと思っております。また、民間のスポーツクラブや地域住民により主体的に運営されている総合型地域スポーツクラブがございませけれども、こういったところへの普及啓発を図っていきたいと考えております。これらの取組を総動員して、スポーツを通じた健康増進、ひいては健康寿命の延伸が実現するよう、このプログラムを活用しつつ、引き続き取り組んで参りたいと考えております。

【厚生労働省 吉永大臣官房審議官（健康担当）】

健康寿命延伸というものが私共の政策テーマの非常に大きなものになっておりますけれども、厚生労働省としても 2040 年を見据えた形で社会保障・働き方改革本部というものを立ち上げて、どうやって健康寿命を延ばしていこうということとかを、今検討を進めているところでございます。そういう意味で今回提示いただきました beyond2020 マイベストプログラムということで、健康面での自己ベストを目指して、行動変容に取り組む環境を提供するという取組は、私共にとって非常にありがたい取組だと思っております。ぜひとも協力させていただきたいと考えております。マイベスト目標の設定にあたりましては、色んな方がいらっしゃるわけですが、高齢者の方、疾患のある方を、若い方で低体重の方、そういう方々に向けてどういう目標がいいのか、柔軟な目標設定をしていただいてマイベストを実現していただくことが重要なのではないかと考えてござ

います。私共としても「健康日本21」の中で、さまざまな目標を設定しておりまして、そういう中からどういう目標を定めていくことが、自己ベストの実現に、またさらには私共の施策としての健康寿命延伸に効果的に役立てるかを考えていながら、ご協力させていただきたいと考えております。

【経済産業省 藤木大臣官房商務・サービス審議官】

経産省といたしましても、今、内閣官房の下で、次世代ヘルスケア産業協議会というものを設けておりまして、関係省庁等と連携しながら、個人の健康増進に資するヘルスケア産業の振興といったようなことに取り組ませていただいております。今、事務局の方からご説明がございましたbeyond2020マイベストプログラムということでございますけれども、厚労省からもありましたけれども、個人の健康面等に対して行動変容、いかに行動を変えていくかというツールをどうしていくのか、それをどう認証し普及していくか、という観点から非常にいい重要な試みであると思っております、そういった観点から私共としてもしっかり協力させていただきたいと思っております。

- ・ beyond2020 プログラムの他分野への展開及び beyond2020 マイベストプログラムの創設について了承。

<2020年東京大会を契機とした文化プログラムへの取組について>

- ・ 内閣官房オリパラ事務局より、資料16について説明。

<平田事務局長より総括>

【平田局長】

本日は、宮田文化庁長官をはじめといたしまして、東京都、組織委員会、関係府省庁、関係機関の皆様から、取組の進捗状況を共有いただきました。

文化庁からは日本博を実施し、2020年東京大会を契機としまして、日本の美を体現する美術展や舞台公演等を全国で展開する旨、ご説明がありました。本日のご説明を踏まえまして、オリパラ事務局、文化庁、東京都、組織委員会の連名で文化プログラムの全体像をまとめた資料を、前回の会議からアップデートして、認識を共有することができました。また、スタートから2年弱が経過した「beyond2020プログラム」を文化以外の他分野へも展開していくことが確認されました。beyond2020プログラムの発信力を強化するとともに、より一層の機運醸成につなげていきたいと考えます。他分野への展開の一環としまして、オリンピック・パラリンピックの組織委員会が定めましたコンセプトの1つに「全員が自己ベスト」という考え方がございます。こういった考え方を踏まえまして、このbeyond2020プログラムの中に「beyond2020マイベストプログラム」というものをつくることにいたしまして、今日、スポーツ庁、厚労省、経産省の関係部局のご参

加も得て、了承を得ることができました。これは、それぞれの体重とか体脂肪率とか、いろいろな健康の目標を2020年7月までに定めて、それに向かっていく取組を啓発するプログラムでございます。2020年7月24日の「マイベスト目標」を設定して、達成に向けて取り組む個人を応援するべく、具体的なプログラムを提供する事業者の皆様の事業・取組を認証させていただくものです。早速、来週から、申請の受付を開始させていただきたいと考えております。最後になりましたけれども、年が改まりますと、いよいよ2020年の前年となります。より一層、皆さまとの連携を深めて、取組の具体化を図っていきたいと思います。本日はありがとうございました。

・閉会